

令和3年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和3年7月7日（水）

【藤井（事務局）】 令和3年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催させていただきます。

委員の皆様にはお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、会議に先立ちまして、桑名市保健福祉部長の近藤から御挨拶させていただきます。

【近藤（保健福祉部部長）】 皆さん、改めまして、こんにちは。桑名市の保健福祉部長の近藤でございます。

本日は、お忙しい中、また、この天候の悪い中、総合医療センターの評価委員会へ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素は、地域医療をはじめ保健福祉行政に御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染症、それから、ワクチン接種についてでございますが、まだ不透明なところで、この先、どうなっていくかという状況でございますけれども、皆様方には、それぞれのお立場で御尽力いただきまして、また、本市への多大なる御協力をいただいておりますことを重ねて御礼を申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大という中で、総合医療センターでは、発熱外来の設置や感染症の受入れを行っていただくなど、新型コロナウイルスに対する診療体制を継続して実施をしていただいたところでございます。現在は、県内の感染者数は減少傾向というふうになっておりますけれども、東京等都市部では、再度拡大の傾向というふうなところも見えてきておりますので、また感染力の強い変異株というところへの置き換わりということもありますので、大変その辺は危惧をされているところでもございます。

その中で、桑名市総合医療センターと協力をいたしまして、地域医療体制の維持に取り組んでまいりたいというふうを考えておりますので、どうぞ今後もよろしく願いいたします。

本日は、令和2年度の業務実績につきまして御協議をしていただくこととなります。昨年度は、御承知のとおり、新型コロナウイルスということでいろんな影響もあったかと思っておりますけれども、委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御意見をいただきまして、

会議を進めていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単でございますけれども、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【藤井（事務局）】　　続きまして、桑名市総合医療センターの病院長が交代されましたので、御紹介させていただきます。

令和3年4月から新たに病院長に就任されました登内仁様でございます。登内病院長、一言いただいてもよろしいでしょうか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】　　4月に就任いたしました登内です。よろしくお願いいたします。

就任早々、コロナ病棟が急に満床になってきまして、レスピレーターが3台連なったときにはどうなることかと思ったのですけれども、医師会の方に後方支援システムを迅速につくっていただきまして、そこから患者さんが回るようになりまして、そのとき管内に30人ほど入院できない患者がおりまして、本当に焦ったのですけれども、そういったことで、何とか管理することができまして、感謝しております。また、管内の患者を大学とかでも診療していただきまして、本当にありがとうございます。

今日は、お足元の悪い中、評価においでくださりまして、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【藤井（事務局）】　　ありがとうございました。

それでは、会議に入ります前に資料の確認をさせていただきます。

まず、令和3年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会次第、次に、令和2事業年度に係る業務実績報告書、A3のものになります。次に、令和2年度財務諸表と、その添付資料といたしまして、順番に決算報告書、事業報告書、監査報告書がつけてございます。

その次ですが、資料1といたしまして、損益計算書における前年度との比較、それから、参考資料1、業務実績報告書の構成、参考資料2、地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価の基準、参考資料3、第3期中期目標、参考資料4、第3期中期計画、参考資料5、令和2年度計画、それから、本日、お席のほうには、席次表を置かせていただいておりますが、よろしかったでしょうか。

それでは、本日の議事進行につきまして御説明させていただきます。

参考資料1の業務実績報告書の構成を御覧ください。

令和2事業年度業務実績報告書の項目と対応するページ数、法人の自己評価を記載しております。大項目の第1から第3の財務内容の改善に関する目標を達成するべきため、取るべき措置までが評価項目となっております。

大項目1の評価につきましては、中項目ごとに事務局から小項目の業務実績について、法人が自己評価を含め説明をいたします。

その後、小項目ごとに委員の皆様から御質問、御意見をいただきます。

あとは、中項目ごとに説明と評価の繰り返しとなります。大項目の第2、第3につきましては、小項目がありませんので、大項目ごとでお願いいたします。

なお、本日の委員会は、午後5時を目途に終了したいと考えております。それ以降は次回にとお願いしたいと思います。

それでは、豊田委員長に会議の進行をお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、議事を進行させていただきますが、その前に、桑名市総合医療センター竹田理事長から何かございましたら、御挨拶をお願いしたいと思います。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 本日は、大変お忙しいところ、また、足下の悪いところを御足労いただきまして、ありがとうございます。

評価委員会ということで、昨年度、どこの病院でもコロナ一色で、いかにコロナに対応するかと。どのようにしてコロナの患者数を収容して、あるいは対応するかということ、それに全て取られたと。ですから、一昨年と昨年度の目標をつくりましたけれども、なかなかそこを考慮しておく余裕もなしに、コロナに追われて、何とかぎりぎりやってきたというのが、これも本当だと思います。

ですから、今日は、評価項目で幾つか、去年の目標について上げておりますけれども、コロナの診療の合間というのはおかしいですけど、コロナのためにより診療が制限されましたけれども、その中で何とかここまでやったという評価を、そういう目で見ただければ非常にありがたいと思っております。

先ほど院長がお話ししましたように、特に桑名は医師会の先生方、特に青木先生が中心になって、後方支援病院をいち早くつくっていただいたと。桑名市では8つの後方支援病院ができて、非常に患者がスムーズにできました。第4波のときは、桑名市もものすごく患者が増えて大変だったのですけれども、それが青木先生たちのおかげで非常に助かりまして、また改めて深く御礼申し上げます。それを踏まえて、三重県も桑名方式に倣って、後方支援病院を増やそうということで、今現在、25病院が県内で後方支援病院とし

て名を上げているというふうに聞いております。ですから、もしも万一、第5波が来たとしても、後方支援病院との関係はできてきておりますので、第4波みたいなことは起こらないだろうと、そういう予測はしておりますけれども、やはり今回もコロナを通じまして、医療連携ですね、周囲の病院と、それから診療所、あるいは介護施設も含めてですけれども、医療連携の大切さを非常に痛感した次第でございます。

そういうこともありまして、今後、もう少しコロナは続くと思っておりますけれども、頑張っ
てやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

そのようなコロナ等の状況を勘案した上での御評価を委員の皆様をお願いしたいという
ふうに思います。

それでは、令和2事業年度の業務実績に入りたいと思います。

事務局から、業務実績報告書1ページ、桑名総合医療センターの概要と2ページの全体
的な状況につきまして報告をお願いいたします。

その後、引き続き、項目別の状況としまして、4ページから8ページにかけての中項目、
医療の提供について、法人の自己評価を含めて報告をお願いいたします。

それでは、事務局、どうぞよろしく願いします。

【藤井（事務局）】 よろしく願いします。それでは、御説明させていただきます。

1ページ目をお開きください。

まず、桑名市総合医療センターの概要でございます。

1の現況では、令和3年4月から、登内先生が病院長に御就任され、市川先生は名誉病
院長となりました。

また、右側の別表で、主な役割及び機能として、県から承認を受けたことにより、地域
医療支援病院が追加されております。

次に、2の桑名市総合医療センターの基本的な目標等につきましては、中期目標に基づ
いて作成されております。

2ページをお願いいたします。

全体的な状況でございます。

1、法人の総括と課題でございますが、令和2年度は、第3期中期計画の2年目となり、
これまでの実績及び課題を踏まえながら、経営の効率化、医療サービスの充実に努め、年

度計画及び中期計画の達成に向けた病院運営を取り組みました。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、桑名保健所や地域の医療機関と連携し、検査及び診療体制の整備を行いました。令和2年度の経営状況につきましては、医業収益、医業費用とともに前年度実績を下回りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、新入院患者数及び外来患者数が大きく落ち込み、病床稼働率は前年度を下回りました。そのため、医業収益は予算計画を下回る結果となりましたが、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保に対する補償など、各種補助金等の交付により、減価償却前利益は11億2,700万円、経常収支比率は98.0%となりました。

しかしながら、感染症の終息後を見据え、安定した財政基盤の構築に向けて、さらなる収入の確保と費用節減が課題となっております。

以上でございます。

次に、2の大項目ごとの特記事項でございますが、こちらにつきましては、各項目で順次説明させていただきます。

4ページをお願いいたします。

項目別の状況でございます。こちらにつきましては、令和2年度計画に対する小項目ごとの実施状況と、それに対する法人の自己評価を5段階で行っていただいています。法人の自己評価につきましては、先にお配りしました参考資料2の地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価基準にあります評価基準に基づいて5段階評価しております。項目別に御説明いたします。

まず、大項目第1、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置、中項目1、医療の提供につきまして説明いたします。

小項目1、重点的に取り組む医療の実施、a) 救急医療につきましては、民間病院として2次救急医療に従事し、脳卒中センターでは、365日24時間体制を継続しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、桑名市消防本部管内の救急搬送件数が前年度から4割減少したことにより、桑名市総合医療センターの受入れ件数も減少し、令和2年度の救急搬送患者受入れ件数の実績は3,489人で、前年度実績を下回り、計画値に至っておりません。

b) がん治療につきましては、集学的、標準的な治療を提供するに当たり、キャンサーボードを定期的を開催し、治療方針に関する意見交換や検討を行いました。また、がん診療連携拠点病院の令和4年度の指定に向けて、地域の医療従事者を対象とした緩和ケア

研修会の開催など準備を進めております。がんに係る手術件数の実績は741件、全手術件数の実績は3,373件で、前年度実績を上回り、計画値を達成しております。

c) 脳血管障害、循環器疾患、消化器疾患、運動器疾患につきましては、循環器疾患、消化器疾患で新たな施設基準を取得するなど、より高度で専門的な脳血管障害及び循環器疾患につきましては、365日24時間体制での緊急対応を継続しています。また、循環器疾患では、経皮的冠動脈形成術、消化器疾患では、食道縫合術や胃瘻閉鎖術などの施設基準を新たに取得し、低侵襲医療を推進しています。

しかしながら、疾患別の患者数につきましては、新入院患者数が減少したことから、いずれの項目においても前年度実績を下回り、計画値に至っておりません。

d) 周産期医療及び小児医療につきましては、NICUを6床から12床に増床し、高度医療及び専門医療の提供を継続しております。分娩件数の実績は326件で、前年度実績を上回り、計画値を達成しております。また、三重県不安を抱える妊婦への分娩前ウイルス検査事業に参加し、対象者にPCR検査を実施しております。小児科では、血液、腫瘍、免疫疾患外来を9月より隔月で開催しております。

以上、項目によりまして計画値を達成しているものと未達成の項目とがございますが、総合的に見て、おおむね年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

続きまして、6ページをお願いいたします。

小項目の2、地域医療連携の推進につきまして御説明いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響により、外来において患者の受診控えが顕著となり、特に初診患者が低迷しました。

一方、地域の医療機関から多くの患者紹介をいただいたことにより、紹介率83.9%、逆紹介率113.2%と共に前年度実績を上回り、計画値を達成しております。その結果、令和2年9月1日付にて、三重県より地域医療支援病院の名称承認を受けることができております。

また、県で開催される地域連携カンファレンスに参加したほか、連携医療機関との定期的な情報交換を行い、地域連携パスの運営を推進し、こちらも前年度実績を上回り、計画値を達成しております。

そのほかにもがん総合支援センター準備室を設置し、専任の相談員及び看護師を配置し、令和3年度から本格稼働に向けて準備を進めております。

また、地域の介護、福祉施設等と連携し、患者の急変時には受入れを行うよう努めていただいています。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

続きまして、小項目3、災害時及び重大な感染症の流行時などにおける医療協力につきまして御説明いたします。

令和2年3月に地域災害拠点病院の指定を受けたことに踏まえ、さらなる資機材の充実や緊急連絡体制の強化に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、発熱者専用外来を設置するなど、桑名保健所や地域の医療機関と連携し、休日を含めた検査及び診療体制の整備を行っています。また、必要に応じて駐車スペースを利用し、学校や介護施設を対象とした集団PCR検査を実施しています。三重県より重点医療機関の指定を受けたことから、1病棟を感染症専用病棟に充て、専従医師、看護師を配置して、他市町からの搬送を含む入院患者の受入れを行っています。

院内感染防止対策を徹底することにより、院内クラスターの発生を抑止しつつ、重症患者を含む入院患者の診療を行っております。また、軽症者が入院を介さず宿泊療養を受けることのできるルールづくりや回復患者を受け入れる後方支援医療機関の確保を医師会及び三重県との協議により確立し、医療提供体制の整備を行っております。

以上のことから、計画を大幅に上回って実施しているとし、法人の自己評価は5となっております。

以上が中項目1の説明となります。よろしく願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、委員の皆様方から、各項目につきまして御評価を伺ってまいりたいと思います。

まず最初の4ページ目からの中項目、医療の提供で、小項目、重点的に取り組む医療の実施ということで、救急医療については減少、しかしながら、がんに関わる手術件数については増加、それから、脳血管、循環器、消化器、運動器については減少、周産期については、分娩件数増加と、減少と増加と両方あるわけですが、自己評価は総合的に判断して4と。4というのは、年度計画を上回って実施しているという判定になります。3ですと、年度計画を順調に実施している。5は、年度計画を大幅に上回って実施していると、こうなるわけですが、小項目につきまして、委員の皆様方、何か御質問、御意見はございませんでしょうか。

どうぞ。

【伊佐地委員】 救急に関しては、どうやって判断するかですけれども、絶対にコロナの影響で減っていますので、その中でも管内の搬送件数は前年と同じですから、これは達成しているということと考えるもいいのかなと。割合からいいますと39.6%、前年が47%ですね。Bですと、これは上回っていますね。特に手術件数、三重大学はいろんなことがありましたのでかなり減っておりますけど、増えておるということはうらやましい状況でして、コロナの状況で増えるというのは、かなり強みだと私は思います。これは、超えているということになりますよね。

Cに関しましても、落ちているわけではないですから3としますと、Bが上がっている。総合的に、私としては4でいいのではないかなと思います。

【豊田委員長】 ほか、御質問、御意見、ございませんでしょうか。

どうぞ。

【青木委員】 救急搬送が少なくなったということを考えると、いかに普段から必要のない救急搬送が多かったのだというふうに思っております。

同じ桑名市で医療をしておる者として、総合医療センターがあまり診てくれなかったからという実感は全然ありません。ですから、4で十分だと思っております。

以上です。

【豊田委員長】 ほかに。

ほかの委員の皆さん、よろしいでしょうか。

いいですかね。

それでは、自己評価どおり4ということにさせていただきたいと思います。

続きの小項目です。地域医療、連携の推進、6ページ目になります。これは、今回の新型コロナウイルスにも深く関わっているわけですが、紹介率、逆紹介率共に非常に上昇しているという値でございまして、自己評価は4ということになっていますが、いかがでしょうか。

御質問、御意見はよかったですでしょうか。

4でよろしいですか。

先生、いかがですか。

この辺の地域連携の件につきましては。

【青木委員】 逆紹介率は平田先生の患者さんが関係しますか。もう関係ない話ですか。

【北野（桑名市総合医療センター）】 もう関係ないです。

【青木委員】 関係ない話ですか。

それなら、非常に順調に行って、4で問題はないです。

【豊田委員長】 113.2%ということですので、最大限、逆紹介していただいたということでございますので、じゃ、これも4ということでさせていただきたいと思います。

それでは、次の災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力ということで、これは、まさに今回の新型コロナがこれに当てはまる項目になろうかと思えます。

先ほど病院長先生からの御説明、あるいは理事長先生からの御説明もありましたように、桑名市医療センター、大変な御尽力をいただいたということでございまして、自己評価は5となっております。年度計画を大幅に上回って実施しているという評価項目になりますが、いかがでしょうか。

御質問、御意見をどうぞ。

【伊佐地委員】 大学からしますと、桑名は非常にまとまりがいいなという、桑名市医療センターを中心にして、医師会とのつながりが非常に上手くいっている。三重県で一番上手くいっているのじゃないかなと思ひまして、桑名モデルを参考にして、私たちも地区の後方支援病院もつくらせていただきましたし、それから、宿泊は三重大学から医師と看護師さんを行かせているんですけども、そこではなかなかうまく入院ができなかったんですけども、竹田理事長といろいろ相談させていただいて、ルールづくり、どういう患者さんを宿泊させるべきかというのはステージによって違うんですけども、最初は若い人を入れたんですね。若い人を入れると、今度、最も危険な人は入院できずに宿泊もできないとなりましたので、その後は、一歩手前の人、65歳以上も含めて、40歳以上の人を中心に宿泊させて、それ未満は自宅療養とかいうことでうまく回るようになりましたので、まずそれを含めて、桑名地区が医療センターを中心とした新型コロナの取組というのは非常に三重県におけるモデルケースになるかと私は思っています。

【豊田委員長】 先ほど追加資料として、桑名市総合医療センターのCOVID-19患者数が配られましたが、この資料について、ちょっと御説明をいただきたいと思いますが、よろしくお願ひします。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 総合医療センター管理部長の中村でございます。

お配りしました資料につきましては、第1波からずっとコロナの入院患者数と、それか

ら検査数の推移を示しております。赤字で書いてありますのは、月の平均の入院患者数になっておりまして、14床の病床を確保しておりましたので、昨年の12月以降、12月、11月の平均11.3と12.8、今年の4月、5月が12.2と11.7というふうに、ほぼほぼ80%から90%を超える入院で推移しております。これにつきましては、桑員地区、桑名保健所管内でいいますと、桑名市総合医療センターと、それから、いなべ総合と菰野厚生、3病院で割当てを行いながら、保健所のほうと協議をしまして、入院患者を入れてまいりました。基本的に中等症1、中等症2は当院で、軽症の方はいなべ総合と菰野のほうで面倒を見ていただいたと。

それから、今、伊佐地先生がおっしゃっていただいたように、当初、宿泊療養は一旦入院させてからしか入れなかったんですけれども、それを竹田理事長と、それから、三重県の医師会長の二井先生と県の部長と相談をしていただいて、直接入れるようにさせていただけるようになったということで、随分回転がよくなったと。その状況でこの数字で推移していますので、特に昨年の12月、それから今年の1月、それから、4月、5月は本当に戦争のような状態で、最大数で17人入院した時期もありました。これは、御家族も一緒に部屋に入れて管理をしたということで、非常に医師も、それから看護師も、スタッフは非常に厳しい状況であったと思っております。

あと、検査につきましても、青木先生のほうで、応急診療所のほうでつくっていただいた検査が非常にうまく大量に検査をしていただきましたので、当院のほうとしましては、症状が一部ある方の検査ということで、これも保健所と協議をして、すみ分けをしながら検査をしてまいりました。

結果としては、やっと落ち着いてきまして、今日、実は当院の入院はゼロになりました。これは最終的に、今日は実は1名お亡くなりになったのでゼロになったんですけれども、やっと落ち着いたと。検査も今日は保健所からの依頼の行政検査はしておりませんので、やっところまで来て落ち着いたということで、24時間365日体制を取ってやってまいりましたけれども、このまま終息していただけるといいなというふうに思っております。

ここは、先ほどおっしゃっていただいたように、行政とそれから保健所と医師会と当院が非常にうまく連携を取れるような形をつくっていただけたということで、本当に大変でしたけれども、それなりに地域貢献は果たせていたのではないかとこのように考えております。よろしく願いをいたしたいと思っております。

資料の説明は以上でございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ちなみに重症患者の退院に対して対応できる規模とかレベルとか、桑名市医療センターはどの程度だったのでしょうか。例えばレスピレーター数とか、そのほか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 県に申請しておりますのは1名だったんですけれども、やはり中等症から重症になりますので、病棟のほうで陰圧室がありますので、マックスでそこに3名を入れて、あと、HCUのほうに1名で、マックスで4名という状況はつくれるんですけれども、どの病院も言うように、マンパワー的に看護師さんを中心にシフトが組めなくなりますので、それが継続すると疲弊してしまいまして、三重大さんをはじめとして、四日市以南の病院にもレスピの患者を送らせていただいたという状況がありまして、この場を借りて御礼を申し上げます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、御質問、御意見、ございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 参考までに、三重大学も同じような状況でして、HCUに重症患者を入れていたんですけれども、最盛期は、医師、看護師さんだけでは駄目でしたので、薬剤師さん、放射線技師さん、それから、MEさん、あらゆる職種の人に入ってもらいました。それでやっと何とか回っていたという状況です。

【豊田委員長】 エクモはどの程度。

【伊佐地委員】 エクモは、うちは5人やりました。3人は助かりましたけど、2人は亡くなりました。一番長かったのは、90日か100日ぐらいやりました。一時回復したんですけれども、またちょっと悪くなったりして駄目でした。あとの3人は、盛り返しました。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、よろしいでしょうか。

どうぞ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 うちは、エクモは1台あるんですけれども、胸部外科が万が一のときにということがありまして、エクモは三重大様をお願いして、搬送させていただいている次第です。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、自己評価は5でよろしいでしょうか。

では、5でお願いいたします。

それでは、続き、事務局から説明をお願いします。

【藤井（事務局）】 それでは、8ページをお願いいたします。

中項目の2、医療水準の向上につきまして、順に御説明させていただきます。

まず、小項目1、高度・専門医療への取組です。

地域の中核病院として、循環器センター、消化器センター及び脳卒中センターの各センターを継続的に運用しています。また、摂食嚥下サポートチーム及び呼吸ケアサポートチームを新たに設置するなど、多職種によるチーム医療の提供に取り組んでいます。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目2、医師の確保につきまして御説明いたします。

9ページをお願いいたします。

医師の業務負担軽減の一環として、看護師や薬剤師などの医療技術者による診療補助や医師、事務作業補助者による症例登録業務の拡充を行っています。また、女性医師の育児支援や職場復帰支援のためのシステムとして短時間就労制度を実施しており、5人の女性医師も利用があったということです。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目の3、研修医の受入れ及び育成につきまして御説明いたします。

令和2年度は11人の初期研修医とマッチングができ、フルマッチングしております。また、フルマッチングが継続できていることから、令和3年度から受入れ枠の1名増が認められております。専攻医につきましては、12人を確保し、計画値を達成しております。

以上のことから、計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

10ページをお願いいたします。

小項目4、看護師の確保及び定着について御説明いたします。

看護師については、感染防止のため、教育実習の実施などに制約が生じましたが、関係教育機関との連携を図り、新入職員の確保に取り組み、令和2年4月には36人の看護師、助産師を採用しております。介護福祉士の夜間の配置を継続的に実施したほか、看護師業務の一部を薬剤師や臨床工学技士に移行することになり、看護師の業務負担の軽減を図っています。また、感染症診療に従事する看護師を対象にメンタルヘルス相談を実施した結

果、新型コロナウイルス感染症を理由とする離職はなく、離職率は8.9%となり、目安である10%以下に抑えることができております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

ここまでが中項目2の説明となります。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

中項目2、8ページからです。

まず、小項目、高度・専門医療への取組です。医療センターも新しくなりましたが、かなりの高度な専門医療に取り組んでおられます。自己評価は3となっておりますが、いかがでしょうか。

御質問、御意見、ございませんでしょうか。

では、3でよろしいでしょうか。

順調に達成しているということですね。

次の小項目、研修医の受入れ及び育成についてですが、初期研修医とのマッチングが11人ですかね。それから、専攻医在籍数12名ということで、自己評価4となっておりますが、いかがでしょうか。

計画値が全く同じ数字で、多く上回っているという、数字上は上回っていないんですけど、4にされたということは、何かそれプラスアルファがあったという自己評価なんじゃないかね、きっと。

【伊佐地委員】 研修医の定員というのは、前年度のマッチングによって決まっていて、11人の定員のところを目標値11人にするのが普通なんです。だから、それを難しいですけど満たすということは非常に難しく、実は。ですから、目標値は当然11の定員があったら11につくるのが普通でして、それ以上受け入れられないので、11の定員のところに、例えば8人とかはいうのはおかしいことなんですよね。だから、目標値を達成するという事は、ある意味、すごいことなんですよ。その辺りの評価の仕方がちょっと…

【豊田委員長】 その辺、ちょっと難しいですよ。

【伊佐地委員】 ですから、なおかつ僕が言いますと、県のほうから、12に1人増やしていただいておりますね。これは、だから、増やすということはそんなに簡単にできないんです。フルマッチが2年連続達成すると、3年連続達成すると、次の年から、そ

れによって1人、2人と増やしてくれるというような制度で、多くの病院は、フルマッチすること自体、県内ではそんなに多くない。県内でいったら、伊勢赤十字病院も達成していないね、たしか。ほとんどのところが達成していないと思いますよ。

【豊田委員長】 どうぞ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 今、伊佐地先生が説明してくれたとおりなんですけれども、三重県全体でいきますと、研修枠が150ちょいあるんですけれども、その中で、実際に三重県で研修医として採用されているのは、合計で110人弱ぐらいなんです。つまり、7割ぐらいなんです、全体では。その中で、当院は連続してフルマッチングする。定員枠いっぱいということになっておりまして、定員自体の設定はなかなか厳しいものがありまして、我々だけでは何ともしようがないんです。ただ、このように、連続してフルマッチングを続けておりますと、やっと数年で1名増えるかどうかということが現況にありますので、そういうことも踏まえまして、我々の自己評価としては4というふうにさせていただきました。

以上です。

【豊田委員長】 プラスアルファということの利点としては、令和3年度、初期研修医の受入れ枠が1名が認められたというところやっとな、その点を勘案して4にしたということですよ。

いかがでしょうか。

では、これは自己評価どおり4ということにさせていただきます。

【伊佐地委員】 先生、後期研修医が10人残っているというのは大きいと思います。そのまま残っていただいているというのは。

【豊田委員長】 それでは、次の…。1つ飛ばしています。医師の確保を飛ばしてしまいましたが、医師の確保は、今のところ順調に行っておりますかね。不足なく確保されているということとを考えさせていただいてよろしいでしょうか。3という点ですが、今のところ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 理事長先生が主体になっていただきまして、三重大といい関係を構築して、交代があれば必ず、不足があれば補給していただけるような関係性を構築されているというふうに考えております。

【豊田委員長】 そういうことで、小項目2の医師の確保、3でよろしいでしょうか。じゃ、そのようにさせていただきます。

小項目4の看護師の確保及び定着につきましても、順調に達成しているということで3という評価になっております。特に離職率8.9%ということで、10%を切ったということが大変すばらしい実績とっておりますけれども、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 私は4でもいいのかなとちょっと思ったんですけど、コロナの状況で看護師さんをさらに余分に確保されて、離職も抑えられたというのは評価してもいいのかなと私はちょっと思いました。

【豊田委員長】 ほかの先生方、いかがでしょうか。

青木先生、どうぞ。

【青木委員】 私も同じように思います。

【豊田委員長】 それでは、自己評価3ですが、評価委員会の評価は4とさせていただきます。変更した場合、理由を書かないといけないわけですね。先ほどおっしゃったようなことで、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、看護師さんにも非常に負担が多くなっている中で、非常にいろいろなメンタルケア等々に取り組まれて、看護師の離職というのは8.9%であって、10%以下に抑えることができたということで、これは高く評価できることですね。

【伊佐地委員】 大学ではホテルを用意したんですけども、先生、桑名はされました。要するに、看護師さんとかは、すぐに帰るのは嫌だということで。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 医師、看護師共にコロナに注意してやっています。

【伊佐地委員】 それらをされたということで、それらもやはり大きいと思いますけれども。

【豊田委員長】 それでは、次の中項目の説明をお願いします。

【藤井（事務局）】 それでは、10ページの一番下から始まりますが、中項目の3、患者サービスの一層の向上について順次御説明いたします。

まず、小項目1、診療待ち時間等の改善。地域の医療機関との役割分担を行い、外来患者の逆紹介を推進したほか、各診療科において予約制を導入し、待ち時間の短縮を行っております。また、院内滞在時間につきましては、毎週1回、実測調査を行っており、前年度より平均7%である約8分を短縮しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、11ページ、小項目2、院内環境の改善について御説明いたします。

令和2年度は、感染防止のため、ボランティア活動を休止しましたが、アイパッド等を利用した入院患者のオンライン面会やスマートフォンから入力できる電子問診票システムといった感染症対策に配慮した患者サービスを導入しています。

また、再診の患者に限り、患者が直接来院せず、電話にて処方箋の発行を依頼することができる、いわゆる0410対応を実施しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目3、職員の接遇の向上につきまして御説明いたします。

院内の投書箱やホームページ等から、患者の意見については、接遇・患者アメニティ委員会にて内容を検討し、総合受付に案内モニターを設置し、病院からのお知らせ事項を放映する、職員の身だしなみ基準を設定する、アルコール消毒液を増設するなど、必要な対策を実施するとともに、回答を院内に掲示しています。ただし、一部の受付窓口で職員の対応について御意見をいただくということがあり、引き続き接遇の向上が求められているということです。

以上のことから、計画を十分に実施できていないと判断して、法人の自己評価は2となっております。

ここまでが中項目の3になります。よろしく願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、患者サービスの一層の向上ということで、まず、診療待ち時間等の改善です。11ページ、自己評価3となっておりますが、いかがでしょうか。

これも今までの評価委員会でも毎回懸案事項として上がってございましたが、勘考、努力もされて、8分ほど短縮されたということでございます。

3ということによろしいでしょうか。

それでは、次の院内環境の改善ということですが、ボランティア活動は、新型コロナの影響であったり、休止ということもございますが、それに代わりまして、オンラインによります面会とか、その他、工夫されて対応されたということもございます。

自己評価3となっておりますが、いかがでしょうか。

そして、12ページ目の3、職員の接遇の向上、これ、接遇にも御努力いただいているところではありますが、一部の受付窓口等で、職員の対応について御意見をいただくことが

あって、一層の接遇の向上が求められるというふうに自己評価されて、この点については2というふうな自己評価をしておられます。実は、院長、なぜ2なのかなと思って、いろいろ問合せしたんですけど、かなりクレームが…。

【伊佐地委員】 多かったですか。

【豊田委員長】 寄せられたということがあったということでございますので。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 患者様からの投書を読みますと…。

【伊佐地委員】 大学でもいっぱいありますよ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 接遇委員会で出てくる患者様からの投書を見ますと、例えばここに書いてある受付とか、病棟の最初の対応とか、そういうところを含めましてクレームがちょっと多いものですから、改善はしてまいつているのですけれども、このような評価になったということだと思います。

【伊佐地委員】 それに対する対応とか、相談されていますか。

【豊田委員長】 どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 医療センター管理部長の中村でございます。

なかなか苦情をいただく職員というのは、ほぼほぼ同じような職員ばかりなんです、実際は。人を代えるとか、そのように考えましても、なかなかコロナ禍でいい職員が採れないという現状が1つあります。それから、どうしても非正規と派遣に頼っている部分がありまして、なかなか派遣のところからはいい職員をいただけない。コロナということと、それから、桑名という地域柄がありまして、取りあえず名古屋のほうが単価が高いものですから、全部そちらに行ってしまうと。どうしてもその辺で十分な確保ができないということは、派遣業者のほうからも聞いております。

なので、できるだけ職員を自前で、さらに非正規もやめて、正規で採っていこうかという話を理事長とも今話をしているんですが、一長一短にできることではありませんので、少し時間をかけながら改善をしていけるといいなというふうに思っております。

なぜ自己評価2かというのと、やはり同じ職員に対して指導しながら、なかなかそれが改善につながらないというところは、やはり自己評価2の最大の原因だというふうに我々は考えております。

以上でございます。

【豊田委員長】 どの組織でも一緒のような話はあることではありますが、謙虚に自

己評価されて、2という判断ですが、よろしいでしょうか。

どうぞ。

【森下委員】 一部の職員によって評価が下がるというのは、大変厳しいんだなという気がします。私も使わせていただいているんですけども、本当に親切に対応いただいていますよ。

【豊田委員長】 どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 本当に気をつけておりますので、大半の職員はお褒めいただくケースも多々あるんですけども、特に医療スタッフについては、非常に親切に対応していただいたというふうな声をたくさんいただくんですが、なかなか入り口の受付のところでは言われると、事務方も非常に辛いところがありまして、それは、本当に医療従事者の職員に対して非常に申し訳ないと思っております。あくまでも評価は評価ですので、やはりゼロになるように努めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

森下委員、ありがとうございました。

【豊田委員長】 その辺のところということで、同じように2ということできせていただきたいと思えます。

それでは、次の中項目になりますかね。お願いします。

【藤井（事務局）】 それでは、12ページの下段から始まります中項目の4、安心して信頼できる質の高い医療の提供について順次御説明いたします。

まず、小項目1、医療安全対策の徹底、医療安全対策については、医療安全管理委員会を中心に医療機器安全管理委員会、医薬品安全管理委員会、リスクマネージャー部会などで各分野の医療安全対策を検討し、継続的に現場にフィードバックしています。また、B、C型肝炎陽性患者について、消化器内科に受診歴がない方をリストアップし、受診勧奨を行う取組を開始しています。感染対策については、ICT感染対策チームが中心となり、院内ラウンドを行い、職員の感染予防の知識や技術の向上を図ったり、地域の医療機関との定期的なカンファレンスや相互評価を行っています。

また、全職員を対象とした医療安全研修会や感染対策研修会をオンラインにて開催し、職員間での情報、知識の共有及び標準化を図っています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の評価は3となっております。

次に、小項目の2、信頼される医療の提供について御説明いたします。

14ページをお願いします。

患者及びその家族に対し、十分な説明の下、治療への同意を得ることを徹底しています。また、患者本人及び家族による意思決定を尊重するため、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインの策定を行っています。なお、セカンドオピニオンにつきましては、随時受付することとしています。診療録などの個人情報の保護や患者及びその家族への情報開示については、適切な取扱いを行っています。法人ホームページにて、レベル別、内容別にヒヤリ・ハット件数の公開を行っています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目3、施設設備の整備及び更新について御説明いたします。

15ページをお願いします。

病院駐車場の利用状況を鑑み、既存棟跡地に平面駐車場及び駐輪場を整備し、令和2年8月より供用を開始しています。

以上のことから、おおむね順調に計画を実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目の4、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等について御説明いたします。

感染症防止のため、市民公開講座、患者向け教室は中止しましたが、糖尿病週間にポスターや案内モニターを用いた情報発信や桑名市総合医療センターニュース、桑名市広報への毎月の記事掲載などで、各種疾病や感染症の説明等を行い、市民への医療や健康に対する意識の啓発に努めています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているものとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が中項目4の説明となります。よろしく願いいたします。

【豊田委員長】 中項目4、12ページ、13ページです。13ページの医療安全対策の徹底、自己評価は3となっておりますが、いかがでしょうか。

新型コロナで、一般病棟内でのクラスターというのは発生しなかったんですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 看護師が感染した例はあったんですけども、クラスターに発展することもなく、しっかり濃厚接触の方はもちろん休んでいただ

いたんですけれども、それ以上に発展、患者に感染することもなく、周囲に波及することもなく、鎮火できております。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

私の大学のあります鈴鹿でも、多数のクラスターが発生しまして。

【伊佐地委員】 医師のインシデントレポートはかなり増えてきたんですが、何かこれは特別なことをされたんですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 これは、副院長の山田先生がかなり号令をかけられまして、あと、専任の医療安全の看護師が頑張っていて、そういうことからほぼ3倍ですか。

【伊佐地委員】 僕もインシデントレポートの、理想は医師の約1割はあってほしいと言われます。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 おっしゃるとおりです。全然少ないと思うんですけれども。

【伊佐地委員】 今は1割じゃなくて、もうちょっと減らしています。10%じゃなくて、5%ぐらい。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 まだまだ少ないんですけれども、大分、向上してきたということで考えていただければと思っています。

【豊田委員長】 それでは、委員会の評価も自己評価どおり3ということでよろしいでしょうか。

そうしますと、次の14ページ、信頼される医療の提供ということで、インフォームド・コンセント等ですね。自己評価は3となっておりますが、いかがでしょうか。

先ほどのヒヤリ・ハットのケースにつきましてもホームページで公開されておるところでございます。

これも3でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、施設設備の整備及び更新です。これにつきましては、駐車場の件が書かれております。駐車場は、当初、医療センターを開院したときに評価委員会でも何回も御意見いただいておりますが、駐車場も利用状況等も含めて、今、安定した状態なんですか。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 医療センター、管理部長の中村でござ

います。

平面駐車場を整備してから、満車で全然入れないという状況はほぼほぼ回避できた。コロナで患者が減ったということもありますので、駐車場の待ち時間、駐車場の混雑も非常に緩和をされたと思っております。これで、ハードの整備についてはほぼほぼ全部終わりましたので、今後の整備については、施設ということであれば、医療機器のほうに少し軸足を置いていくのかなというふうに考えております。

以上でございます。

【豊田委員長】 じゃ、評価は自己評価どおり3でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それから、次の小項目、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等です。自己評価3となっておりますが、いかがでしょうか。

この辺は、医療センターが市民の方への配信とか、十分なされておりますでしょうか。

【永藤委員】 いろいろ発信されていて、私は興味深く見ているんですけども、ほかの方を見ていると。うちの妻などは、あまり医療センターの発信ってない。と、逆にそういうこともありますので、積極的にやられていることがあれば、具体的にここに書いてある以外でお願いします。

【豊田委員長】 ここに書かれている以外で何か取組があれば教えてほしいということでございますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

この中にも少し書かせていただいているんですが、実は、院内で一番、好評いただいているのは、理事長の部屋。理事長の部屋というのを理事長が書いてみえまして、これをカラー刷りしまして、診察の待ち時間の中に読んでいただくように置いてあるんですけども、これは非常にたくさんよく出ます。医療という、治療の中で読んでいただくのに、理事長の部屋というのは、非常にほんわかしたというか、温かい内容のものが多いので、それを、「今ないんだけど、くれないか」という問合せが非常に事務所の方には、たくさんあります。ですので、患者さんの一番癒しになっているのは、理事長の部屋の冊子かなというふうに思っているんですが、それについては理事長に聞いていただければと思います。

【豊田委員長】 どうぞ。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 ありがとうございます。

理事長の部屋も大学病院のときから始めますと、かれこれ約10年近くなりまして、毎月書いているんですけども。結構、一般の方から手紙を頂いたりメールを頂いたり、あるいはどんと離れて大阪とか和歌山とか、あの辺からもよくメールを頂いたりしますけれども。ああいう形で、できるだけ医療のこととか、花のシリーズとしてやっていますけれども、その中でできるだけ病院の紹介をしようということで、大学病院のときもそうでしたし、桑名へ来てからもできるだけ病院で、特にいろんな部門、検査部門とか、ほとんど一般の方は御存じないと思うんですけども、そういうところをできるだけ紹介したいと思ってやっております、コロナが始まったら全部コロナのことばかりしか書くことがないと。それを書かなければならないと思って、今はコロナを書いております。これもできるだけ続けていきたいと、そういうふうに思っております。

それともう一つ、私から言うのもちょっとあれですけども、今、桑名で健康卓球というのをやっております、今の城南地区の住民の方々に参加していただいて、卓球を通じて地域住民の健康とコミュニティーの活性化をやろうということで、これも結構うまくいまして、今、城南地区で25人ぐらいの方が参加されて、週に2日は先生が来てくれて卓球をしてくれるんですけども。その卓球を例えば3か月間モニターして、最初に血糖値とか血圧とか、その辺を測って、それを1週間ごとに測って、最後にどのぐらい改善したとか、そういうことを出して、地域住民の方に健康増進のためのいろんな活動をやっているんですけども、結構それは、横浜の学会でうちの若い者が発表してきたんですけども、結構評価を受けまして、これをどんどん大きくしていこうと、今、そういうことをやっております、恐らく桑名に全部広げようかと、今、伊藤市長がそれを望んでみえますし、そういう形で地域住民の方々への直接の健康増進のためのようなアクティビティーも通じてやっているところでございます。

【豊田委員長】 登内先生、何か御追加ございますか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 理事長におんぶにだっこで、今はコロナで対面の、例えば糖尿病の講座とかも開けないものですから、どうしても紙ベース等のそういうことになってしまいますので、またコロナが明けましたら、患者様といろいろお話ししたり、やっていきたいというふうに思っております。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

では、自己評価3のとおりで、委員会の評価も3でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、次の大項目、説明をお願いします。

【藤井（事務局）】 それでは、16ページをお願いします。

大項目第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置について、中項目ごとに御説明いたします。

まず、中項目の1、適正かつ弾力的な人員配置、医師をはじめとする各職種において、必要に応じて常勤嘱託や短時間勤務を取り入れ、効率的な業務運営を図っています。また、働き方改革関連法に基づき、常勤嘱託職員及び臨時職員の給与体系の見直しを行っております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

続いて、中項目の2、職員の職務能力の向上について御説明いたします。

医師をはじめとする各職種において、三重大学医学部附属病院との人事交流を行っております。事務部門では、県内他病院との人事交流及び研修会を実施しています。また、学会や研修への参加と職務上、必要な資格の取得を促すため、必要経費の負担等の支援も継続しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

続いて、17ページ、中項目の職員の就労環境の整備について御説明いたします。

働き方改革関連法の施行に伴い、有給休暇、年5日の確実な取得や時間外労働時間の削減に取り組み、職員1人当たりの時間外労働時間は10.1時間となり、昨年度の12.5時間から19.1%の削減となっております。また、院内保育所において、病児・病後児保育を開始し、職員が働きやすい環境の整備に努めています。

また、前年度に引き続き、院外の臨床心理士に委託し、職員が無料でメンタルヘルス相談を受けられる制度の運用を行っております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、中項目4、効率的な業務体制の推進と改善について御説明いたします。

18ページをお願いいたします。

院内ホームページを活用し、病院経営に係る課題や経営状況等の様々な情報を掲載する

とともに、職員が業務改善案などを書き込むことのできる職員御意見箱の機能を追加し、継続的な業務改善に努めています。

なお、公益財団法人日本医療機能評価機構における第三者評価につきましては、感染症対応に注力するため、受審を延期しております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、中項目の5、収入の確保について御説明いたします。

令和2年度の医業収益は110億2,200万円となり、前年度実績を下回り、予算計画には至りませんでした。ベッドコントロールチームを中心として、適切かつ効率的な病床運用に努め、病床稼働率の向上を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、新入院患者数及び外来患者数が大きく落ち込んだことによる病床稼働率は74.7%となり、前年度実績を下回り、計画値に至っておりません。

なお、1人1日当たりの入院収益及び外来収益は、手術件数の増加や集中治療室の稼働率の上昇に伴い共に増加し、計画値を達成しています。

以上のことから、計画を十分に実施できていないと判断して、法人の自己評価は2となっております。

続いて、19ページです。

中項目の6、支出の節減について御説明いたします。

令和2年度の医業費用は126億8,800万円となり、前年度実績を上回っています。診療材料費については、ベンチマーク分析を継続し、購入価格の削減に努め、手術件数は増加しましたが、診療材料費については減少し、対医業収益比率についても予算計画内となっております。薬品費につきましては、前年度とほぼ同額となりましたが、対医業収益比率では予算計画内に収まっています。

20ページをお願いします。

後発医薬品使用率は、数量ベースで80%以上となりましたが、計画値を僅かに下回っています。給与費につきましては、前年度より支給額が増加し、対医業収益比率についても医業収益が減少したことから、計画値に至っていません。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が大項目の御報告です。よろしくをお願いします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、16ページから、大項目、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置ということで、中項目1、適切かつ弾力的な人員配置ということで、これは各職種における常勤嘱託や短時間労働からの柔軟な勤務体系、そういうことの項目ということですが、自己評価3となっておりますが、いかがでしょうか。3でよろしいでしょうか。

どうぞ御質問。

【伊佐地委員】 働き方改革関連法に基づき、常勤嘱託と、それから臨時職員の給与体系、これって、具体的にどんなものが、ちょっと知らなかったものですから、法案でそういうものがあるんですか。

【豊田委員長】 どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

これはあくまでも同一労働、同一賃金という考え方がありますので、それに基づいて、少し見直しをさせていただいたということで、昇給制度がなかったものですから、特に臨時任用の方については。そういったところを、年数とかを勘案しまして、昇給をさせるようにしたと、そういう内容のことでございます。

以上でございます。

【豊田委員長】 ほか、御質問、御意見はございませんでしょうか。

そうしましたら、3、評価委員会の評価も3でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

次に参ります。

職員の職務能力の向上ということで、人事交流と研修に関する項目です。学会とか研修への参加等々です。

自己評価3となっておりますが、これは従来からもやってこられて、従来どおりやっておられるということだと思いますが、よろしいでしょうか。

どうぞ。

【森下委員】 中期計画とか年次計画に入っている認定看護師や専門看護師の専門職種の資格の取得を促進するという、このことについて記載がないんですけど、この辺りはどうなっているのでしょうか。

【豊田委員長】 いかがでしょうか。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

認定看護師とか専門看護師等を取りにいくようにという啓発は、院内でサポートもしながらしています。コロナ禍でもありますし、学校へ行って、しっかり資格取得していかなきゃいけないというところもあって、なかなか思うように進んでいないところは事実ではあります。ただ、今年も専門看護師を1人か2人取ってきたというふうに聞いておりますので、着実に数字は増えておりますし、特に認定看護師や専門看護師が辞めたということはありませんので、少しずつ裾野は広げていけるといいのかなというふうに考えております。院内としては、サポートは十分ではないですけど、ある程度はさせてはいただいているんですが、もう少しそういう気運が醸成してくるといいなというふうに考えております。以上でございます。

【豊田委員長】 そういうことでございます。

自己評価3のとおりでよろしいでしょうか。

先ほどの説明もありましたように、認定看護師とか専門看護師、年度計画で文章だけで書いてあるだけですが、これを、例えばどの程度の、どういう種類の認定看護師、専門看護師が何人ぐらいいらっしゃるかと、そういうデータもお示しいただくと、評価する側としては評価しやすいということがあると思います。

もし可能であればそうしていただければと思います。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 承知しました。

【豊田委員長】 では、次が、職員の就労意欲、満足度、ワーク・ライフ・バランスということで、働き方改革関連法関連です。時間外労働、いろいろな御努力により削減されたということですが、いかがでしょうか。

御質問、御意見、ございませんでしょうか。

どうぞ。

【伊佐地委員】 平均時間外が2時間減ったんですけど、これは何か取組されたんですか。声掛けとか。

【豊田委員長】 どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

これにつきましては、適切な時間外に抑えて、体を大事にして帰ってくださいと言い続けただけです。もう少し減らしていくといいなというふうに思っているんですが、なかなか減っていかないの、職員の健康のほうが。

【伊佐地委員】 医師も含めて、全職員ですか。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 そうです。

【伊佐地委員】 大学病院は働き方改革をしてほしくないんですけど、外勤まで入れよということになってきているので、どうするのという。もうそのとき僕はいないので大丈夫かなと思いますが。

【豊田委員長】 その辺、青木先生、どうですか。働き方改革について民間病院とかはどんな感じなんでしょうか。

【青木委員】 医療センターほどきつくないものですから、仕事が。時間どおりに。時間外はほとんどありません。

【豊田委員長】 大学病院は、外勤もありますし、診療以外にも研究とか教育もありますので。

【伊佐地委員】 どこからどこまでが仕事なのかと。

【豊田委員長】 難しいですよ。

【伊佐地委員】 線引きが難しいんです。頭を悩ませています。

【豊田委員長】 これ、医師も含めての時間で短縮されたということなので、いいんじゃないかと思います。

どうぞ。

【青木委員】 メンタルヘルスの相談を受けられるようになったとありますが、これは、あなたが受けなさいというのはどういうふうに決めておるんでしょうか。自分の判断でしょうか。

【豊田委員長】 いかがでしょう。

どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

基本的には、自分で行っていただくというふうにはしております。ただ、コロナ禍であったところもありましたので、コロナ病棟の看護師とか外来の看護師については、病院のほうからメンタルヘルスを受けるようにということをお勧めして、受けたという事案はありました。

【青木委員】 周りから見て、この人は受けたほうがいいのか、コロナ禍で増えたのだと思いますけれども、実際進めて、どれぐらいの人が受けていますか。これ、よその学校とか、そういうところだと、ほとんど受けていないのが現実なんですけれども、勧め

て受けた割合というのは大体どれぐらいですか。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 ほとんど現実にはゼロなんです。コロナ禍では少しありまして、年間で10件ぐらいの相談ということで、ある程度は上司のほうで、上席のほうで吸収していただいているのかなというふうに我々は思っているんですが、もう少し受けていただいてもいいのかなと思っているんですけれども、年間で10件ぐらいでした。これだと、十分例年に比べると多いという状況です。

【青木委員】 すごいですね。だいたい普通嫌がるんですけどね。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 そうですね。

【青木委員】 分かりました。

【豊田委員長】 ほか、御質問はございませんでしょうか。

【森下委員】 分かる範囲でいいんですけれども、有給休暇の年5日の取得ですけれども、実績的にどうですか。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

これについては、医師がほとんど取れていないというような状況でございます。その他の職種については、ほぼほぼ達成はできていると思うんです。事務職だと数人だったと思うんですが、なかなか医師は難しいというところです。

【豊田委員長】 ほか、御質問、よろしいでしょうか。

それでは、自己評価3どおり、委員会の評価も3でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、次の18ページです。

業務改善に取り組む組織風土を醸成する等、あるいはコミュニケーションをよくするとか、その辺りの課題でございますが、御質問、御意見、ございませんでしょうか。

職員の御意見箱というのはどうなんですか。かなり機能しているでしょうか。結構、意見が御意見箱に寄せられているのでしょうか。

どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部、中村です。

実績としては1件だけです。直接箱に入っていたのは。

【豊田委員長】 1件だけ。そうすると、非常にいいとは言えないかもしれませんね。

ほか、御質問、御意見、よろしいでしょうか。

【伊佐地委員】 質問ですけど、これはまた別ですか。普通の医療安全とか、意見箱と

は別のものですね。職員御意見箱と。職員別に設けられたんですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 ホームページをなるべく双方向性にしようとして、今改革していきまして、いろいろ一方的に発信するだけじゃなくて、こちらのほうから病院の管理のほうから一方的に発信するだけじゃなくて、職員のほうからも声を入れてもらおうというような形に掲示板とか、そういうものも作ったりとか、そういう方向でやっておるところでございます。その一環ということで、もうちょっと書いていただけるような、もうちょっと仕組みを考えなければいけないのかもしれませんが、双方向性ということ意識しております。

【豊田委員長】 業務改善提案といいますか、民間企業では結構昔からされているということですので、また御努力をいただきたいと思います。

これ、自己評価3のとおりでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、次の収入の確保です。

18から19ページにかけてで、コロナ禍ということで、病院の入院の収益等が減っているということで、自己評価は2ということにしておられますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

【青木委員】 今までに経験したことのないコロナ禍ですので、評価をすること自体が無理なんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

【豊田委員長】 僕もそう思います。

【伊佐地委員】 大学病院もすごく減っていますので、目標を何にするかということと、前年度実績は当然下回っていますので、これはなかなか難しいですよ。当然減るのは決まっていますので、その辺りは考慮して考えていただくといいのではないかなと思います。

【豊田委員長】 こういう場合、どうしたらいいのかな。

【伊佐地委員】 今、毎日、大学も3年間をグラフに書いて、稼働率とか、あれをやっているんだけど、どこを標準にするんだろうって、2019年度なんて、稼働率が90%ぐらい、88%ぐらい行っておったのが、今や71とか、70になったという。どこが指標になるのか分からないですよ、今の状況だと。だから、どこをもってすべきかとは非常に困っています。

【豊田委員長】 そうですよ。評価の判定する基準内がよく分からないといいますか、数字上は減っているわけですけど、当然のことながら、これをもって判定可能かと言われ

ると、なかなか難しいものがある、しかし、これは判定不能という評価はできないんですか。そうするとまずいのかな。何らかの点数をつけないといけない。

【近藤（保健福祉部部長）】 また、委員長さんと事務局でその辺を再考していただくということで御理解いただければ。

【青木委員】 コメントを何か加えたらいいんじゃない。

【豊田委員長】 コメントを加えて、コロナ禍であるので、これは判定不可能であるとか、判定の評価点をつけるのは適切でないとか、そういったコメントをつけて、計算から除外するとか、でもこれ、点数を全部足し合わせて評価するのですでしたか？

【近藤（保健福祉部部長）】 最後はそうなりますので、その辺の表記をどうするか。

【豊田委員長】 総合点をつけないといけないんでしょう。その際に、総合点に加えることは適切でないとか、そのようなコメントでもって、点数をつけないということが可能かどうか、これは検討していただかないと結論は出ないと思いますので、これは委員長預かりにさせていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、支出の削減ですね、次が。19ページ、20ページで、これも手術件数は増えているにもかかわらず、材料費とか、比率は増えていないというか、減っているということで、非常にいいのかなど。給与費が増えるのは当然のことながら、医業収益は減っていますので、コロナ禍ですので当然のことなので、これも判定不能と言えば判定不能になってしまうわけですけど、これも3ということでもよろしいでしょうか。

では、これは3ということにさせていただきたいと思います。

それでは、次の財務内容の改善に関する目標を達成するべきに取る措置について、説明をお願いします。

【藤井（事務局）】 それでは、20ページ下段の大項目第3、財務内容の改善に関する目標を達成するべきに取るべき措置について御説明いたします。

大項目2、業務運営の改善及び効率化に関する達成するべきために取るべき措置で定めた計画を実施するため、ベッドコントロールチームを中心に効率的な病床運用に努め、病床稼働率の向上を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、新入院患者数及び外来患者数が大きく落ち込み、病床稼働率は前年度実績を下回り、医業収益は予算計画を下回る結果となっています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保やPCR検査の実施に対する補助金など、各種補助金などの交付により、令和2年度の減価償却前利益は

11億2,700万円となっております。感染症の終息後を見据えて、さらなる収入の確保と費用節減が課題となっております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が大項目3の説明でございます。よろしく申し上げます。

【豊田委員長】 いかがでしょうか。これも先ほどのこととも関連するわけですが、補助金を頂いて、補助金を足し合わせると、結局というか、収支はとんとんになっていることなんでしょうか。次の評価委員会でもその辺が数字が出てくるということだと思いますが。

どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター管理部長）】 管理部長の中村でございます。

コロナの感染症に伴いまして、40床の病床を当院は閉めておりますので、その分につきましては、国・県のほうから空床補償という形でお金を頂いております。それを補助金の収益で経常の中に入れていきますので、経常ベースとしてはとんとんの数字になっているかというふうに思っています。減価償却前利益では、かなりの数字が出ております。この前、民間病院さんと話をしていたら、民間病院さんでコロナ患者を受け入れてみえるところは、収益を臨時収益に入れたので、営業収益は真っ赤かということようなことをおっしゃって見えました。財務諸表の作り方は、各病院によって多少の違いはあったと思えますけれども、最終損益につきましては、いつも理事長とも話をしているんですけれども、コロナ禍で空床補償が出ている病院についてはある程度数字が出るんだろうなというふうに思っております。

ただ、これも蔓延期から小康期に入りますと、空床病床が減りますので、そのときにはかなり厳しくなるんだろうなということで、その備えは必要だというふうに思っております。

私、実はこの病院に来て2年目の夏を迎えるんですけれども、いつもこの病院、4、5、6が悪くて、4月、5月、6月の四半期が。実は、今年の4、5、6はすごくよくて、5月の何日か、満床で救急を止めたという状況も数日あったんです。こんなこと、4、5、6では今までなかったねと言っていたんですけれども、コロナが終わった後に、どれだけ病床を動かせるかというのが病院の一番の問題のところだというふうに思っています。昨年度の決算につきましては、ずっと40床、閉めておりますので、その影響が非常に大きか

ったと。病床稼働率につきましては、例年と比べてそれほど遜色があったという感じではなかったですし、また単価も上がっておりますので、ここら辺については、どうやって評価をするかというのは非常に難しいところではないかというふうに考えております。

以上でございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

委員の皆様方から、何か御質問、御意見、ございませんでしょうか。

永藤さん、よろしいですか。

【永藤委員】 こういう状況ですので、医業収益もそれだけ、費用もそれなりに頑張っ取り組んでいるので、数字が悪いとしても、これは判断のしようがないと思います。

【豊田委員長】 判断のしようがないという項目になるだろうと思いますが、一応3という自己評価がついておまして、委員会の評価も3ということでさせていただいてよろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただきます。

今日はここまででよろしかったのでしょうか。

ありがとうございます。そろそろ終了の時間が近くなってきておりますので、本日はこのくらいにいたしまして、続きは次回ということにさせていただきます。

それでは、本日の評価委員会としての評価を確認するために、評価点とコメントを事務局から報告してください。お願いします。

【藤井（事務局）】 それでは、ここまでの項目ごとに評価委員会としての評価点と評価に変更があったところのコメントについて、内容を確認させていただきます。

順番に行きます。

大項目第1、中項目1、医療の提供、小項目1、重点的に取り組む医療の実施につきましては、委員会の評価、法人の自己評価と同じ4。

続きまして、2、地域医療連携の推進、こちらにつきましては、同じく法人の自己評価と同様、委員会の評価は4。

3、災害時及び重大な感染症の流行時などにおける医療協力、こちらにつきましても、委員会の評価は法人の自己評価と同様で5。

続きまして、中項目2、医療水準の向上、小項目1、高度・専門医療への取組、こちらにつきまして、法人の自己評価と同様、委員会の評価も3。

2、医師の確保につきましては、こちらも法人の自己評価と同様、委員会の評価も3。

3、研修医の受入れ及び育成、こちらにつきましても、法人の自己評価と同様、委員会の評価も4。

4、看護師の確保及び定着、こちらにつきましても、法人の自己評価は3でしたが、委員会の評価は4、コメントといたしましては、コロナウイルス感染症が拡大する中で、看護師に負担が増えている。その中で、メンタルケアなどに取り組んでいただいで、採用や離職を抑えたということは評価ができるということによろしいでしょうか。

続きまして、中項目3、患者サービスの一層の向上、1、診療待ち時間等の改善、こちらにつきましても、法人の自己評価と同じ、委員会の評価も3。

2、院内環境の改善、こちらも法人の自己評価と同様、委員会の評価は3。

3、職員の接遇の向上、こちらは法人の自己評価2と同様、委員会の評価も2。

中項目4、安心して信頼できる質の高い医療の提供、小項目1、医療安全対策の徹底、こちらにつきましても、法人の自己評価3に対して、委員会の評価も3。

2、信頼される医療の提供、こちらにつきましても、法人の自己評価と同様、委員会の評価も3。

3、施設整備の整備及び更新、こちらにつきましても、法人の自己評価3と同様、委員会の評価も3。

4、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等、こちらにつきましても、法人の自己評価3と同様、委員会の評価も3。

続きまして、大項目第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置、中項目1、適切かつ弾力的な人員配置、こちらにつきましても、法人の自己評価同様、委員会の評価も3。

2、職員の職務能力の向上、こちらにつきましても、法人の自己評価3同様、委員会の評価も3。

3、職員の就労環境の整備、こちらにつきましても、法人の自己評価3に対しまして、委員会の評価も3。

4、効率的な業務体制の推進と改善、こちらにつきましても、法人の自己評価3に対して、委員会の評価も3。

5、収入の確保、こちらに対しては、法人の自己評価は2でしたが、コロナ禍で、これはいろいろ考慮すべきことがあり、どこを基準とするのかが不明であるため、評価をつけるのは適切ではないということで、それが可能かどうかは、後ほど委員長と相談をさせて

いただきたいと思ひます。

6、支出の節減、こちらにつきましては、法人の自己評価3に対して、委員会の評価も3。

大項目第3、財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置、こちらにつきまして、法人の自己評価3、委員会の評価も3となっております。

以上でございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様、先ほどのまとめでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、ほかに何か、委員の皆様方から御質問、御意見など、ございませんでしょうか。特に問題はないですか。

ほかに質問等はないようですので、これで本日の議事を終了します。

あとは事務局でお願いします。

【藤井（事務局）】 本日は、長時間にわたり御議論いただき、誠にありがとうございました。

次回の評価委員会でございますが、本日の業務実績評価の続きと財務諸表等についての御意見をいただくため、7月27日火曜日の午後1時半から、場所は、本日と同じ、桑名市パブリックセンター2階、大研修室で行います。

資料につきましては、本日の資料を引き続き使用いたしますので、御持参くださいますようよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和3年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。

本日はありがとうございました。

— 了 —